

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 5月30日更新

事務事業名		マタニティ学級実施事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	安武 祐次
	施策	18	子どもを見守り、育てる地域づくり			所属課	健康づくり推進課	担当者名	太田 真由美
	基本事業	59	地域における子育て支援			所属班	健康推進班	(内線)	2169
予算科目		会計一般	款 4	項 1	目 6	事業連番 10593	法令根拠	母子保健法	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		
						成果優先度評価結果		⑩	
						コスト削減優先度評価結果		⑥	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	昭和40年に公布された母子保健法の施行後、平成9年の母子保健法改正により身近な市町村に移譲され、生涯を通じた女性の健康支援として開始。 前期・後期・赤ちゃんふれあい体験を1クールとし、妊婦及びその家族が、適切な情報を得ることにより安心して妊娠・出産・子育てができるよう情報提供を行っている。また、仲間づくりを場とすることで、意見交換ができ、出産・育児への不安、悩みなどの不安解消を図っている。講話では妊娠の経過、産前産後の過ごし方、赤ちゃんを守る制度について情報提供。栄養については調理実習と試食を行い、実習では妊婦疑似体験、沐浴指導を実施。
(開始した背景、きっかけ、今後の状況変化を含む)	
【業務の流れ】	周知方法は、母子健康手帳交付時に事業の紹介及びパンフレットを配布。また、対象者を抽出し、案内のハガキを郵送。電話での受講申込。 前期・後期で妊娠中の生活についてや出産後の制度の説明、妊婦疑似体験・沐浴指導を保健師が実施し、栄養士が栄養講話、調理実習を実施。 あかちゃんふれあい体験は、育児相談に来た親子の協力を得て、助産師・保健師の指導のもと乳幼児と接する。
【主な予算費目】	賃金(助産師、栄養士)、需用費(消耗品費、印刷製本費)、役務費(通信運搬費)
【意見や要望】	参加者からは、友達ができ、妊娠中のみならず出産後も相談しながら子育てできる仲間ができ本当に良かった。妊娠中や育児の不安解消になった。沐浴の練習が出来て、実際に役に立った。妊婦疑似体験をして、妊婦の気持ちが分かったというという夫の意見など多く聞かれる。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動)22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
前期6回、後期6回、赤ちゃんふれあい体験4回。		前期6回、後期6回実施する。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ア 参加者数	人	母子健康手帳、妊娠届出書等印刷費の減。	
イ			
②対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
妊婦(夫や祖父母の同席も可)		→ア 妊婦	人
イ		→イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
妊娠・出産について学び、妊婦同士の友達作りの場を提供することにより、育児不安の解消を図る。また、安全な出産につなげることができる。		→ア 参加者の満足度(60%以上)	%
		→イ 参加率	%
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠			
参加率が上がることで、妊婦の出産・育児に対する不安の解消を図ることができるため、成果指標として設定する。			

(2)各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	
①活動指標	ア 人	人	146	182	204	193	240	0	0	
	イ									
②対象指標	ア 人	人	560	565	590	614	6,000	0	0	
	イ									
③成果指標	ア %	%	98.7	99.3	100	97.9	100	0	0	
	イ %	%	26.1	32.2	35	31.4	35	0	0	
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円	254	182	45	86	85		
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	254	297	409	178	201		
人件費	(A)事業費計	千円	508	479	454	264	286	0	0	
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	(A)のうち時間外、特別	千円	0	0	0	0	0	0	0	
	正規職員従事人数	人	8	8	0	9	0	0	0	
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間	時間	430	352	360	220	0	0	0	
	(B)人件費計	千円	1,720	1,400	1,432	906	0	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,228	1,879	1,886	1,170	286	0	0	

総トータルコスト
全体計画
～年度

(期間限定複数年度のみ記載)

事務事業名	マタニティ学級実施事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	-------------	-----	-------	-----	----------

2 評価の部 (SEE) ※原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 参加者を増やすために、学級の周知徹底が必要。また、満足度を高めるためにも内容を再検討する。
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 開催の周知はしているが、目標達成は厳しいものがある。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 「仕事をしているので平日は休めない」、「産婦人科のマタニティ学級に参加するので参加しない」という妊婦さんもいるため、出席率が伸び悩んでいる。市のマタニティ学級の利点（予定日が近い友達ができる）をきちんと説明し、出席率を向上していく必要がある。また、出席者の満足度を維持していく。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある⇒【理由】（具体的な手段、事務事業） <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 他に類似した事業がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 最低限の経費で実施している。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限の専門職と職員で実施している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 参加費は無料。調理実習の時は米半合を持参していただいている。広報やホームページ等で周知するとともに、母子健康手帳交付時に全員に周知しており、受益機会は公平である。
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 過去の実績から、更に対象者のニーズを捉えて事業に反映させることが出来ると考える

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

参加者を増やすために、学級の周知徹底が必要。また、満足度を高めるためにも内容を再検討が必要である。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (PLAN)

<p>(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善 (有効性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善 (公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)</p> <p>学級の周知徹底、内容の再検討をする。</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策</p> <p>参加者が初産婦、経産婦で満足度に差がでるため、共通の内容で満足できる内容にする必要がある。</p>																						